

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 7 部門第 1 区分
【発行日】 令和 6 年 11 月 6 日 (2024.11.6)

【国際公開番号】 WO2024/122046
【出願番号】 特願 2023-514505 (P2023-514505)
【国際特許分類】
H05B 3/20 (2006.01)
【FI】
H05B 3/20 311

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 3 月 2 日 (2023.3.2)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

20

断熱基材と、
前記断熱基材に設けられた金属コート基材と、
前記断熱基材よりも前記金属コート基材側に設けられたコード状発熱体と、
前記コード状発熱体と隣り合って設けられた黒色熱融着層と
を備え、
前記黒色熱融着層は、前記金属コート基材と前記コード状発熱体とを覆うように設けら
れている、
面状ヒータ。

【請求項 2】

30

前記金属コート基材と前記コード状発熱体との間に設けられた第 1 熱融着層と、
前記コード状発熱体の外周に設けられた第 2 熱融着層と
をさらに備え、
前記金属コート基材と前記第 1 熱融着層と前記第 2 熱融着層が設けられた前記コード状
発熱体と前記黒色熱融着層とが熱融着によって固定されている、
請求項 1 に記載の面状ヒータ。

【請求項 3】

40

断熱基材と、
前記断熱基材に設けられた金属コート基材と、
前記断熱基材よりも前記金属コート基材側に設けられたコード状発熱体と、
前記コード状発熱体と隣り合って設けられた黒色熱融着層と
を備え、
前記黒色熱融着層は、カーボン粒子とポリオレフィン樹脂とポリオレフィン系共重合体
とを含む、
面状ヒータ。

【請求項 4】

前記ポリオレフィン樹脂は、ポリエチレンであり、前記ポリオレフィン系共重合体は、
エチレン酢酸ビニルコポリマーである、請求項 3 に記載の面状ヒータ。

【請求項 5】

前記黒色熱融着層は、前記金属コート基材と前記コード状発熱体との間に設けられてい
る、請求項 3 に記載の面状ヒータ。

50

【請求項 6】

前記黒色熱融着層は、前記金属コート基材に熱融着されており、

前記黒色熱融着層の上に配置された前記コード状発熱体が、前記断熱基材、前記金属コート基材及び前記黒色熱融着層を含むヒータ線保持用基材に縫い付けられている、

請求項 5 に記載の面状ヒータ。

【請求項 7】

前記コード状発熱体の外周に設けられた熱融着層をさらに備え、

前記金属コート基材と前記黒色熱融着層と前記熱融着層が設けられた前記コード状発熱体とが熱融着によって固定されている、

請求項 5 に記載の面状ヒータ。

10

【請求項 8】

前記黒色熱融着層は、厚さが $0.05\text{ mm} \sim 0.35\text{ mm}$ であり、表面抵抗が $10^5 \Omega / \text{cm}^2 \sim 10^{10} \Omega / \text{cm}^2$ である、請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の面状ヒータ。

【請求項 9】

前記黒色熱融着層は、帯電防止体である、請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の面状ヒータ。

【請求項 10】

前記金属コート基材は、表面にアルミニウムが堆積した織布若しくは不織布、又は、アルミニウムが堆積した長繊維で形成された織布である、請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の面状ヒータ。

20

【請求項 11】

前記表面に堆積したアルミニウムの厚さは、 $5\text{ }\mu\text{m} \sim 50\text{ }\mu\text{m}$ である、請求項 10 に記載の面状ヒータ。

【請求項 12】

前記断熱基材及び前記金属コート基材は、表面に金属が堆積した不織布によって一体として形成されている、請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の面状ヒータ。

【請求項 13】

請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の面状ヒータを備えるシートヒータ。

30

40

50